

**平成26年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業
アウトドアチャレンジ「岩手しぜんとあそぼキャンプ in テンパーク～冬編～」**

実施概要報告

- 1 開催の趣旨** 東日本大震災津波から3年を経過し、復旧復興の努力が各方面から進められているが、当実行委員会も被災地の子どもたちを対象としたグリーンケアキャンプを被災当初から実施してきた。子どもたちが自然に触れ親しむ活動を行い、異年齢間の交流を楽しみ、自分たちで工夫してキャンプを創造していくことで、未来に向かって希望を持ち、仲間と助け合って活動することの素晴らしさを実感させていきたいと考える。対象は釜石市、大槌町、大船渡市の児童とする。
- 2 事業の目的** 東日本大震災津波の被災地域の子どもたちに対して、豊かな自然の中での野外活動体験を提供し、心のケアを進めながら生きる力を育成し、未来に夢や希望を持てる子どもたちの育成に資する。子どもたちの成長を通して家族や地域の方々に体験の価値を認識していただき、家族や地域ぐるみで体験活動の推進につながることを期待できる。
- 3 主催** アウトドアチャレンジ岩手県実行委員会
＜構成団体＞ 特定非営利活動法人岩手県レクリエーション協会、岩手県キャンプ協会、岩手県シェアリングネイチャー協会、日本ボーイスカウト岩手連盟、ガールスカウト岩手県連盟、特定非営利活動法人盛岡YMCA、国立岩手山青少年交流の家
- 4 協力** 株式会社ユニバーサルコンピューターシステム、日本ボーイスカウト埼玉県連盟、NPO法人未来図書館、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟、ルーテル学院大学、NPO法人乗馬とアニマルセラピーを考える会（馬っこパーク・いわて）、株式会社IBC岩手放送、岩手大学、岩手看護短期大学
- 5 後援** 岩手県教育委員会、釜石市教育委員会、大船渡市教育委員会、大槌町教育委員会
- 6 事業名称** 平成26年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業
アウトドアチャレンジ「岩手しぜんとあそぼキャンプ in テンパーク～冬編～」
- 7 実施場所** 国立岩手山青少年交流の家「テンパーク」 〒020-0601 岩手県滝沢市後292
- 8 事業日程** 平成27年1月10日（土）～12日（月・祝日）
- 9 参加者** 釜石市・大槌町・大船渡市の小学4～6年生 64名 大学生ボランティア28名
- 10 参加費** 一人 3,500円 **参加申込期日** 12月5日（金）
- 11 集散及び移動手段** 釜石市内・大槌町内・大船渡市内集散場所より会場まで貸切バスにて送迎。
- 12 スタッフ** 実行委員、プログラムスタッフ、マネジメントスタッフ、キャンプカウンセラー、グループリーダー（大学生）等。事前に「体験の風をおこそう」運動についての研修を行った。
- 13 プログラム**
ふおとラリー（アイスブレイク、班作り、仲間作りを含む）、キャンドルナイト、ネイチャーゲーム、雪遊び（かまくら作り、そり遊び）、交流会（獅子舞で新年を祝う）、乗馬体験、動物とのふれあい、遊びリンピック（ニュースポーツ）等。子どもの心の状況に注意深く対処しながら各種体験プログラムを実施し、心と体をリフレッシュさせる。また、グループリーダー（大学生）を中心に班活動を行うことでコミュニケーション能力を育成するとともに各自の生活能力を高める。
- 14 日程と活動内容**
（1）スタッフ（児童とは異なる活動等について）
前日：1月9日（金）19:00～21:00 冬編運営会議（プログラム責任者）
日程やプログラムについての最終打ち合わせと準備

1 日目：1 月 10 日（土） 9：30～12：00 スタッフ及びグループリーダー研修・会議

「体験の風をおこそう」運動と生きる力の育成及びグリーフケアの研修

キャンプ全体構想とプログラム運営について 安全・安心のための緊急時対応等について

1 日目と 2 日目：1 日（土）2 日（日） 22：00～22：30 グループリーダー・スタッフ会議

プログラム活動やグループ活動における課題解決のための打ち合わせ

3 日目：11 月 3 日（月）13:30 ～14：30 グループリーダー・スタッフ会議（反省評価）

ボランティアアンケート記入、反省会議（評価と課題及び感想）、次年度への提言等

（3）プログラム日程と活動内容

1 日目：午後；開会式、オリエンテーション、班作り、アイスブレイク、ベットメイキング、

フォトラリー：写真をヒントにして館内を探検し 50 個のポイントを見つけるゲームを実施。

夜；キャンドルナイト：キャンドルに灯を灯し、歌、ゲーム、ダンス、スタンツ、光る紙芝居等で交流し仲間との親睦を深めた。

2 日目：午前；ネイチャーゲーム；「生物多様性じゃんけん」「アニマルウオーク」「白いキャンバス」で、自然と親しみ、動物の足跡を見つけたり、樹木の冬芽を観察したりした。

午後；かまくら作りコンクール；班ごとにかまくらを作り、交流を進めるとともに協働で一つのものを作り上げる喜びを味わった。制限時間内で仕上げようとどの班も集中して取り組んだ。そり遊び；各種そり、タイヤチューブ等で仲間と楽しく滑り、すっかり仲良くなった。何度も滑って子どもたちは、大満足。大学生のボランティアも一緒に興じた。

おやつタイム；班ごとにカルピスを飲みながら、雪遊びをふりかえった。

夜；獅子舞作り；創作活動を通じて班内の親睦を深め、協働で作上げた獅子や踊りを披露することで達成感を感じることができた。役割分担をすることで責任感を感じ仕事に熱中した。

3 日目：午前；馬っこパークでの体験活動；3 グループにわかれ「乗馬」「小動物とのふれあい」

「遊びリンピック」とローテーションを組みながら各体験活動に取り組んだ。「乗馬」では、一人ずつ慎重に馬に乗り、馬の温もりを感じながら厩舎内を歩いた。馬から降りた子どもたちは満足げな笑顔であった。「小動物とのふれあい」では、やぎやうさぎにえさをあげたり、なでたりしてふれあった。ポニーにえさをあげた子もいた。「遊びリンピック」では、クッブ・アキュラシー・バグジーを楽しんだ。うまくいくと歓声があがり一層楽しさが増すようだった。

閉会式；アンケート記入。各種表彰。各班代表による感想発表。七木田先生の助言。実行委員長まとめのあいさつ。集合写真撮影。

15 事業の評価

参加児童に対して、生きる力の測定アンケート I K R（独立行政法人国立青少年教育振興機構）を実施して教育効果の検証をするとともに、参加児童及びボランティアの大学生に対して実行委員会独自のアンケート調査を実施して認識の変容を分析する。（結果は、後日公表する。）

16 準備等の諸会議

プログラム検討会議：平成 26 年 11 月 11 日（火）10 時～（岩手山青少年交流の家）

参加者抽選及び班編成会議：平成 26 年 12 月 5 日（金）14 時～（岩手山青少年交流の家）

運営・プログラム検討会議：平成 26 年 12 月 26 日（岩手山青少年交流の家）

17 運営組織（別紙開催要項参照）

18 問い合わせ先 国立岩手山青少年交流の家（担当：佐々木克子・高橋省一・中野健二）

TEL：019 - 688 - 4221 Fax：019 - 688 - 5047

19 写真集



子どもたちの到着



ふおとラリー



開会式での記念写真



キャンドルナイト



光る紙芝居「ブレーメンの音楽隊」



ネイチャーゲーム



白いキャンパス



かまくら作り



「かまくら」完成を祝って



チューブすべり



そり遊び



チューブすべり



獅子舞作り



獅子舞披露



乗馬体験



小動物とのふれあい



ポニーと



遊びリンピック「ラインカップ」



遊びリンピック「バグジー」



遊びリンピック「アキュラシー」



アンケート記入



閉会式後、馬っこパーク前で